

私たちのお寺は

宗 派・日蓮宗
ご本尊・大曼陀羅
【だいまんだら】
ご本仏・久遠実成
本師釈迦牟尼仏
【くおんじつじょうほ
んししやかむにぶつ】
総本山・身延山
久遠寺
【みのぶさんくおんじ】
宗 祖・日蓮大聖人
経 典・法華経
主に唱えるもの・開
経偈～方便品～自我
偈～お題目～宝塔偈

「本照寺」のホームページは厚木本照寺で検索してください。

この「本照寺だより」が届かない家はお檀家登録がされていません。墓地があっても「本照寺だより」が届かない方はお知らせください。

荒崎良徳さん（左側記事参照）には登校拒否の体験があった。それは小学校5年生の時……毎朝、家を出る。だが、足は学校に向かない。人目がある表通りを避け、裏道から裏道へと野良猫のようにさまよい歩いた。そのときのわびしさ、寂しさ、情けなさは、いま思い出しても胸が締めつけられるという。

預かる立場として

■児童養護施設・林鐘園の園長を務めたとき、登校拒否の子を預かることになった。荒崎さんはその子と2人だけ話をした。
「学校に行かないで、どこにいたんだい？」
子どもはポツリと答えた。
「町外れの土管の中にいた」
途端に荒崎さんの胸に、学

校に行けなかった日々のわびしさ、寂しさがせつなく突き上げてきた。
荒崎さんは思わず言った。
「そうか。辛かったなあ」
子どもは一瞬、驚いたように荒崎さんの目を見た。すると、にわかに荒崎さんの手をつかみ、大声で泣きだした。
堰（せき）を切ったような、張り裂けるような泣き声だった。とめどもなく泣きじやくつ

荒崎師 55歳 自殺の苦悩

たあとで、子どもは言った。
「おれ、林鐘園でがんばってみる……」
「小さな人生論」藤尾秀昭 致知出版社

■「昭和58年、私（荒崎）は大きな苦しみに出会い、自殺を考えるに至った。
毎日暗いうちから本堂の観音さまの前で「般若心経」を唱え続けた。そしてどうすれば「一空」を覚えるのか。それ



は「前文」の「般若心経」を多読し、深く行じると気付

悲しみを通して 見えてくるもの……

■人は誰にでも泣きたくなるような思い出や体験が必ずあることでしょう。更に言えば、泣きたい思いにあふれて

編集後記
■上記・荒崎師は「法華経を拝む」の文中で「法華経なくして曹洞宗の教え（正法眼蔵）は成り立たないのに、現在の曹洞宗は道元禪師さまの行、つまり坐禅だけを強調し、禪師さまの信、つまり法華経をなござりにしている」と言っています。これは道元が「法華経は諸經の大王であり他の經典はすべて眷属」と正法眼蔵で教えている事実によって、更に、我が臨終に際し法華経を唱え、そして臨終を迎える最期のその部屋を「妙法蓮華経庵」と名付けた事実によって来るものなのです。「法華経」と言えば日蓮宗ですが、道元と法華経との関係は案外知られていないのでしようね。
■今夏の「山」は、1泊ずつ（山小屋）で「西穂高独標」に「縦走・頂上から隣の山の頂上へと歩く」したいのですが、なかなか予定が……燕岳は縦走無しの往復（ピストン）でしたので久々の筋肉痛となりました（因みに日本3大急登のひとつ）。燕岳へは本厚木町田八王子子松本穂高バスとなります。

日蓮宗国際協力プロジェクト

ラオスに 小中学校を建設

■日蓮宗では長年にわたり、日本国内はもとより、国際協力活動を行っています。これらの基金は、全国日蓮宗寺院からの「宗費」から、また寄付金などによつて支援されています。主立ったものは、30



20年間で119校の学校が完成

も、30

ラオスに 寄宿舎を建設

■20から30の村に一校程度しかない中学校に遠隔地のため通学できない生徒に、校庭内に建設した寄宿舎（10人前後収容）から通学してもらうためのシステムです。現在までに12棟の建設ができました。



遠い生徒のために寄宿舎を

設けました。

本照寺だより19年4月号から

再登場

■「ほろほろと鳴く山鳥の声聞けば父かとぞ思う母かとぞ思う」鳥の生命に両親を見た僧、行基。古来日本人はたとえ食する動物であってもその命をいただいた以上、全てを「生」かし供養もし、鳥と人間との間に差別をしない。■一方キリスト教では食肉としての動物は神の恩恵で与え

キリスト教と仏教

られたものであつて供養の概念はない。神を頂点とするピラミッドの世界観では人間をNO.2とし、自然すら征服すべきものであり、自然と人間との関わりすら見出すことをしなかった。アメリカのケイパブ国立公園では鹿を守るために、狼やコヨーテを全滅させた。結果鹿が全滅したことは有名な話。■この教えを土台とした彼らは機械的に分解し、これを（機械論・要素還

元主義（デカルト）。ここに西洋科学の原点が見えるのだ。それを全体へと戻して説明のつかない現象も当然存在する。その典型が生命だった。反面、日本人はどんな「部分」にも「全体」が反映されていることを理解し、法華経では「トマト一個も自然界が総合された物と見る。■今後、さらなる温暖化が心配される地球という全体だが、私たちも宇宙世界が総合された一員なので、世界に法華経が必要なので、ここに